

【中堅】上原(富士ゼロックス・本社)× 梅木(JR東日本・本社)

試合開始から積極的に技を仕掛けていた上原。試合が中断した直後の再開の立合、剣先でズッと上を取った上原がそこから竹刀を振り下ろせば、これが見事な一本となった(写真)。上原が貴重な追加点を挙げた

チーム	先	次	中	副	大	得点
富士ゼロックス(本社)	東	岡	上	北	岩	2
	郷	北	原	川	川	2
(5)	⑤	×	②	×	×	0

チーム	先	次	中	副	大	得点
JR東日本(本社)	大	高	梅	広	川	0
	山	山	木	瀬	上	0

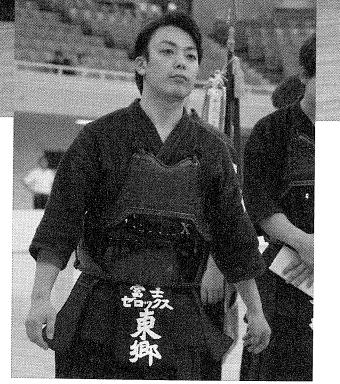
決勝



先鋒の東郷がドウに切り込み一本(写真)。富士ゼロックスが幸先の良い白星スタートを切った

両チームの対戦は先鋒戦から動いた。富士ゼロックス東郷(23歳)とJR東日本大山(23歳)の新戦力同士の戦いは、機動力に勝る東郷が大山の手元の浮きをドウに切って先勝を挙げる。次鋒戦でも富士ゼロックスはJR東日本の反撃を許すことなく、その後の中堅戦で上原(34歳)が勝ち星を追加。結果的には踏んだ場数の差が出たが、JR東日本に一本も許さぬ完封勝利で富士ゼロックスの3年ぶり7回目の優勝が決まった。喜びに沸く富士ゼロックス陣営。チームを率いた三木勤監督は笑顔で今大会を振りかえる。

「昨年は最後の最後で一本差で負けてしましました。新人と中堅選手、そしてベテランというチーム構成なのですが、ベテランと中堅選手がうまくまとめてくれて、新人選手はガンガン行こうと。チーム



最優秀選手賞
東郷知大(富士ゼロックス・本社)

毎年参加チームが増加傾向にあるこの関東実業団大会。昨年は226チームのエントリーがあったが、今回は235チームと、昨年を上回るそれがあった。日々、日本経済を支える多くの企業人がこの日はその手に竹刀を握り、武の殿堂・日本武道館を大きく沸かせた。

大会の歴史を振り返れば、一昨年、昨

7回前2位の富士ゼロックス(本社) 度目の栄冠!

一般の部

優勝 富士ゼロックス(本社)

東郷知大(23歳)、岡北真輔(37歳)、上原祐二(34歳)、住崎誠洋(36歳)、岩川力(27歳)、北川清太(23歳)。監督=三木勤

第58回 関東実業団剣道大会

平成28年6月5日(日)
日本武道館
主催◆関東実業団剣道連盟
撮影◆窪田正仁



決勝戦終了後、仲間たちからの祝福を受ける富士ゼロックス(本社)のメンバーたち

年と三井住友海上(本店)が連覇を達成。旧・住友海上火災時代には大会最高記録となる四連覇(平成5年・第35回大会～平成8年・第38回大会)をマークしている。同社だけに、その記録更新もまた戦いのモチベーションのひとつとなっていることだろう。

5回戦のJR東日本リテールネット(本社)戦は代表にもつれる接戦ながらも、三井住友海上はここを乗り越えペスト8に進出。三連覇に向けてのラストスマートが始まるかと思いきや、準々決勝の三井住友銀行(本店)戦では次鋒、中堅を奪われてしまふ苦しい試合を強いられる。勝負どころの副将戦も引き分けに終わり、この時点で三井住友海上の三連覇の夢は潰えた。前回まで過去5大会連続で決勝戦へとコマを進めていた三井住友海上だったが、残念ながらその記録も今回で途絶えることとなった。

大会の頂点に立ったのは、実業団剣道界の強豪のひとつ、富士ゼロックス(本社)だった。この関東大会の最多優勝記録は三井住友海上の持つ10回だが、それには次ぐ6回の優勝を誇るのが富士ゼロックスである。昨年の決勝戦で三井住友海上に敗れている富士ゼロックスは、これで2年連続の進出となつた。

優勝を賭けて竹刀を交えた相手はJR東日本(本社)であった。過去、第46回大会(平成16年)では3位入賞の経験があるJR東日本が、当時の記録からステップアップの初の決勝進出を遂げた。



準決勝



【次鋒】岡北(富士ゼロックス・本社)×— 三浦(日本通運・本社)

チーム	順	先	次	中	副	大	川	得点
JR東日本 (本社)	大	高	梅	廣	瀬	上	3	3
	山	山	木	瀬	高	上	4	4

チーム	順	先	次	中	副	大	岩	得点
富士 ゼロックス (本社)	東	岡	上	北	原	川	2	2
	郷	井	原	原	井	川	2	2

チーム	順	先	次	中	副	大	柴	得点
日本通運 (本社)	菅	三	中	柴	谷	口	0	0
	原	浦	石	田	原	川	0	0

【中堅】梅木(JR東日本・本社)×— 軸原(三井住友銀行・本店)

▲両軍譲らず、先鋒と次鋒は引き分けに終わる。試合が動いたのは中堅戦。積極的に技を繰り出したのは軸原だったが、猛攻に耐えた梅木がワンチャンスをモノにした。(写真)。中堅の勝利で勢いづいたJR東日本は副将、大将と連勝し、三井住友銀行を突き放した

のバランスが非常に良かつたのが勝因でしょうか。大会前に合宿をやったのですが、そこでは先輩後輩関係なく、お互いに何でも言い合える雰囲気になつた。それが非常に良かったかなと思います」
大会3位には伝統ある2チームが入賞。三井住友海上を下す金星を挙げた三井住友銀行(本店)は、平成元年(第31回大会)、旧住友銀行時代に挙げた3位入賞以来のベスト4進出。入賞のもう1チームは日本通運(本社)。実業団大会の初期より活躍する古豪は今大会では優勝候補の一角・NTTを下すなどの健闘を見せた。こちらも入賞の記録は平成15年の第45回大会(当時は3位)以来となつた。



日本通運(本社) 2—0 NTT 【大将】谷口(本社)×— 下村(本社)

▲先鋒菅原が一勝を得た日本通運。NTTの猛追を何とか振り切りながら、試合はついに大将戦へ。取らなければならぬNTTの下村が落ち着いた攻めを見せたが、ほんのわずかメンに打ち気を見せた瞬間、谷口がこれを余しメンにとらえた(写真)



三井住友銀行(本店) 2—0 三井住友海上(本店)

【次鋒】平田(本店)×— 石井(本店)

▲先鋒戦を引き分けに終えた後の次鋒戦。石井の足がわざかに止まった瞬間に平田がメンでとらえる(写真)。平田の一本勝ちでリードを奪った三井住友銀行は、続く中堅の軸原も鈴木から一本を奪い2勝目をマーク。副将戦は引き分けに終わり、三井住友銀行が勝利



2位 JR東日本(本社)

大山達彦(23歳)、高山駿介(25歳)、梅木健次(30歳)、広瀬圭介(30歳)、川上秀洋(32歳)、大井洋(30歳)。監督=木村泰雄



3位 日本通運(本社)

菅原壮一郎(23歳)、三浦和也(22歳)、中石吉郎(33歳)、柴田優貴(25歳)、谷口賢人(25歳)、赤澤智希(22歳)。監督=野村隆行



3位 三井住友銀行(本店)

山田貢乃介(30歳)、平田圭(25歳)、軸原和久(26歳)、中村一誠(30歳)、嘉山隼(31歳)、近藤二郎(33歳)。監督=梶山和徳

関東実業団

◀大将戦の途中で日通商事の丸山が負傷。勝負は代表戦へと持ち込まれることになった。日本通運は大将谷口、日通商事は副将の賀川を送り出す。試合開始からすぐにひき下ろを狙つた賀川だったが、それをすばやく追つた谷口のメンが決まつた(写真)



3位 三井住友銀行(本店)

